

蒲生氏郷公ゆかりの地

蒲生氏郷（がもうじさと）公は、弘治2年（1556）日野中野城で蒲生賢秀の子として生まれ、幼名を鶴千代といいました。織田信長に従い、元服して忠三郎賦秀（ヤスヒデ）と改め、信長の娘冬姫を妻としました。信長が本能寺の変に倒れた後、豊臣秀吉に従い、名を氏郷と改め天正12年（1584）戦功によって伊勢松ヶ島12万石に転封されました。松阪に新城を築き移った氏郷の徳を慕い、多くの日野商人が松阪に移住したのです。天正18年（1590）の小田原陣の後、秀吉は氏郷を奥州の押さえとして会津黒川92万石に封じました。氏郷は、自分の故郷日野の若松の森にちなみ当時の黒川の地を若松に改めました。氏郷はますます興隆していくかに見えましたが、文禄4年（1595）、氏郷は文禄の役のため名護屋在陣中に病にかかり、京都の蒲生邸で40歳の若さで生涯を閉じました。



蒲生氏郷公像 蒲生氏郷公を郷土の誇りとして顕彰するため、大正8年（1919）日野町上野田・ひばり野に銅像が建設されましたが昭和19年、第二次世界大戦に資源として供給されその後、幾度か再建への努力がかさねられました。在の銅像は、銅像建設審議会の答申に沿って、地域活性化及び景観対策事業として起工、地域の建設協力会はじめ、各地の多くの方々の尽力と協賛のもとに昭和63年（1988）4月に完成。文禄元年（1592）名護屋陣に向かう途中、中山道武佐の宿より郷土日野を望み、「思ひきや 人のゆくへぞ定めなき わがふるさとを よそに見んとは」の歌を詠む氏郷の姿を写したものです。



中野（日野）城跡 歴史上では日野城と呼ばれるこのお城は、日野では古くから中野城と称しており、鎌倉時代の初期から約400年間における日野の領主蒲生家6万石の最後の本城でした。東方音羽の城山に蒲生家の音羽城があった文亀大永の頃（1501～1523）に、この地に砦が造られたのがはじめてであり、その後、蒲生定秀が当主の頃天文2年（1533）から3年かけて本格的に築城され、同時にこの城の西側一帯の荒野に町割りをして日野の城下町をつくりました。蒲生定秀の孫に当たる蒲生氏郷は、この城で弘治2年（1556）に生まれました。氏郷26歳の天正10年に本能寺の変で織田信長が討たれたとき、安土城にいた信長の妻妾一族をこの城へ迎え入れ、明智光秀の群を迎え撃とうとしたことは有名です。天正12年豊臣秀吉の命によって蒲生氏郷が伊勢松ヶ島へ国替えとなり、52年間にわたる中野城と城下町繁栄の歴史は幕を閉じました。昭和40年、日野川ダムの造成によって土塁などはこわされましたが、本丸と堀の一部が残され、その名残を留めています。



音羽城は、応永22年（1415）蒲生秀綱あるいは蒲生秀胤によって築城されたと伝えられています。現在の日野町東部、音羽地区にあり、中世、蒲生郡の南端を領していた蒲生惣領家の本拠とされています。音羽城はさまざまな記録にその姿を残しており、蒲生秀胤の代に叔父である蒲生高郷と相続争いが生じた際には、六角定頼による攻撃を受け、籠城戦の舞台となっています。その後、降伏した秀胤が鎌掛城へと移った際に廃城となったと考えられます。明治時代以降の造成や土砂採取等により、現在は大きく削平、掘削され、公園に姿を変えています。園内やその周囲には井戸跡や部分的な土塁、曲輪、堀切等が残されています。



信楽院 浄土宗の寺院で奈良時代前期、聖武天皇の勅建と伝えられています。中世にこの地方を統治していた蒲生氏の菩提寺です。安土・桃山時代に現在地に移されました。境内には滋賀県指定の文化財の本堂や書院などがあります。また、本堂天井には、狩野山楽にも比肩するといわれる日野出身の画家高田敬輔（たかだけいほ）作の巨大な竜が荒れ狂うさまを描いた「雲竜」（写真）を中心に描かれた縦横１１mの見事な水墨画があります。



若草清水 村井横町にある地藏堂のすぐ下に清水があり、「若草清水」と呼ばれています。千利休の七哲の一人だった日野出身の戦国武将蒲生氏郷公が、茶の湯にこの水を使ったという由緒ある清水であるといわれています。天明年間この泉のそばに画家の島崎雲圃が清水のいわれを書いた碑をたてられました。また、慶応２年（１８６６）には河原田町の谷孝道が若草清水を読んだ歌碑を建てています。「たちよれば やがて心の底すみて むすぶにあかね 若草の水」



馬見岡綿向神社 日野町の最高峰である綿向山（標高１，１１０m）の頂上に鎮座の綿向大神（天穗日命）を、平安時代初期の延暦１５年（西暦７９６年）に里宮として現在の地に遷し祀り、蒲生上郡の総社として信仰をあつめました。その後、当地を支配し城下町を築いた蒲生家が氏神として庇護し、さらに江戸時代には日野商人が出世開運の神として崇敬しました。壮大な境内には滋賀県指定文化財の本殿をはじめ、日野商人が寄進した立派な拝殿や絵馬殿・石灯籠・石橋などがあります。毎年５月２・３日に行われる絢爛豪華な曳山車で賑わう湖東地方最大の日野祭（県指定無形民俗文化財）は、この神社の春の例祭です。



若松の森跡

天正１８年、蒲生氏郷が会津黒川城主に封じられたとき、黒川の名を故郷日野城の近くにあった若松の森の名にちなんで、黒川を若松の名称に改めたと伝えられています。その若松の森とは、馬見岡綿向神社の参道を覆っていた森であったと言われています。古書によれば、江戸時代の中期に多くの松が枯れ伐り除かれて人家が建ったと書かれています。現在の松は名将氏郷が遠く会津の地より故郷を懐かしんだ名残りの松です。

